

21 世紀型スキル習得のための 言語活動による学習モデルの提案

A Learning Model by Language Activities Employing 21st Century Skills

春日井 優**
Yu Kasugai

森本 康彦**
Yasuhiko Morimoto

宮寺 庸造**
Youzou Miyadera

埼玉県立朝霞高等学校*

東京学芸大学**

Saitama Prefectural Asaka High School

Tokyo Gakugei University

<あらまし> 新学習指導要領では思考力・判断力・表現力の育成を行うため、各教科における言語活動の充実が求められている。この流れと並行して、国際的には21世紀型スキルについて検討されている。言語活動、21世紀型スキルともに思考力の向上を目指しており、初等中等教育における言語活動による学習を通して21世紀型スキル習得のための学習モデルを検討し提案したい。

<キーワード> 思考スキル 学習スキル 授業設計 教育方法 言語活動 21世紀型スキル

1. はじめに

現在、国内では新学習指導要領において言語活動の充実が求められており、国際的には21世紀型スキルの育成について検討されている。また、21世紀は、新しい知識・情報・技術が活動の重要な基盤となる「知識基盤社会」であり、パラダイム変換に対応できる柔軟な思考力が必要とされる⁽¹⁾。この状況に対応するために、新学習指導要領において、知識・理解だけでなく思考力・判断力・表現力等の育成が求められている⁽²⁾。これらの能力の育成には言語活動が必要不可欠であり、すべての教科において言語活動を充実することが求められることになった⁽³⁾。

同様に、国際的にも「知識基盤社会」に対応するために21世紀型スキルなどの汎用的なスキルの育成が求められている⁽⁴⁾。本稿で述べる「21世紀型スキル」は、「ATC21S(Assessment and Teaching of 21st Century Skills)」で定義されたスキルを対象とする。

本研究では、初等中等教育で求められている言語活動を基に学習の在り方を整理しモデル化することを目的とする。さらに、21世紀型スキル習得のための言語活動による学習モデルを提案することを目的とする。

2. モデル化のための要件の抽出

本章では文献調査を行い、モデル化ための要件抽出を行う。

2.1 言語活動について

中央教育審議会では、思考力・判断力・表現力の育成にとって重要な学習活動として6項目を例示しており、教科の内容に組み入れるものとされている⁽⁵⁾。ここで挙げられている言語活動は、論述するなどの書く活動と、伝達するなどの話す活動に分類することができる。さらに、黒上らの

分析により思考スキルが分類されているが、大きく分けて思考を整理するスキルと思考を広げるスキルに分類することができる⁽⁶⁾。よって、(*1)言語活動には書く活動と話す活動の動作による分類、および思考を整理する活動と思考を広げる活動を示すこと、をモデルに考慮する必要がある。

また、言語活動によって行った思考・判断・表現の評価については、記録、要約、説明、論述、討論といった言語活動を通して評価するとしている⁽⁷⁾。ここで述べられている評価はアセスメントとしての評価を指し、言語活動による活動自体がアセスメントの役割を担っていると考えられる。よって、(*2)評価は言語活動であることを示すこと、をモデルに考慮する必要がある。

さらに、情報活用能力をはぐくむことは言語活動の基盤になるものであると位置づけられている⁽⁸⁾。(*3)情報活用による活動を行うこと、をモデルに考慮する必要がある。

2.2 21世紀型スキルについて

21世紀型スキルの定義については、ATC21Sのプロジェクト「21世紀のスキルに関する作業グループ」で検討されており、次の4カテゴリーに分類されている⁽⁴⁾。

- ・思考の方法
- ・仕事の方法
- ・仕事のツール
- ・社会生活

さらに詳細化された項目として、思考の方法では創造性と革新性、批判的思考・問題解決・意思決定、学習能力・メタ認知が挙げられている。また、仕事の方法ではコミュニケーションとコラボレーションが挙げられ、仕事のツールとしてICTリテラシーと情報リテラシーが挙げられている。

(*4)思考の方法、仕事の方法、仕事のツールの3カテゴリーについては言語活動として授業で行うことができる観点として今回のモデル開発へ考慮するものとする。残る社会生活について

は、より大きな枠組みである社会性に関するカテゴリーであるため、本稿では他のカテゴリーのみに焦点を当てることとした。

2.3 要件抽出

2.1 節、2.2 節で明らかになった言語活動による学習モデルの開発に考慮すべき 4 項目(*1~*4)をもとに、モデルに対する要件を以下のように整理した。

要件

- A 活動の動作による分類と思考の広がり方の 2 観点によって言語活動を整理する。(*1 からの要求)
- B 言語活動はアセスメントとしての評価と一体化であることを示す。(*2 からの要求)
- C 思考の方法・仕事の方法・仕事のツールの 3 カテゴリーを観点に取り入れること。(*3, *4 からの要求)

3. 言語活動による学習モデル

本章では 21 世紀型スキルを取り入れた言語活動による学習モデルの提案を行う。3.1 節では要件 A についてモデル化を行い、3.2 節では要件 B, C についてモデル化を行う。

3.1 言語活動について

要件 A を満たすモデルとして活動の動作と思考の広がりを 2 軸にとり図 1 に示すようにモデル化を行った。本モデルでは、言語活動は 4 個の領域により分類できることを示し、学習内容を中心に活動を行うことを示している。これらの 4 つの領域の活動は単独で行うのではなく、他の領域に含まれる活動を組み合わせて行うことを示している。なお、4 つの領域内に書かれている活動は例示である。

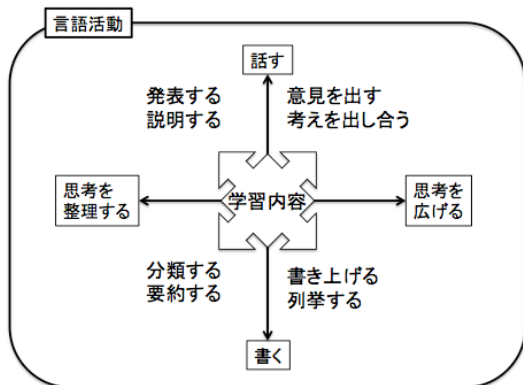


図 1 言語活動による学習モデル

書く活動と話す活動及び思考を広げることと整理することを組み合わせることにより、21 世紀型スキルで求められている創造性と革新性及び批判的思考・問題解決・意思決定の育成が期待される。また、話す活動を通して仕事の方法として求められているコミュニケーションの育成が期待される。このモデルにおける活動を組み合わせて行うことは、要件 C の思考の方法及び仕事

の方法に含まれるコミュニケーションについて言語活動による学習を通して育成することを示している。

3.2 評価及び 21 世紀型スキルのモデルへの組み込み

- 次に、要件 B 及び要件 C をモデルに組み込み、図 2 のモデルとした。図 2 では以下を示している。
- ・評価（アセスメント）が言語活動と一体化であること（要件 B に対応）
 - ・言語活動を行うこと（要件 C：思考の方法に対応）
 - ・評価を含む言語活動は ICT を活用した活動として行うこと（要件 C：仕事のツールに対応）
 - ・ICT を活用した言語活動によりコラボレーションを行うこと（要件 C：仕事の方法に対応）

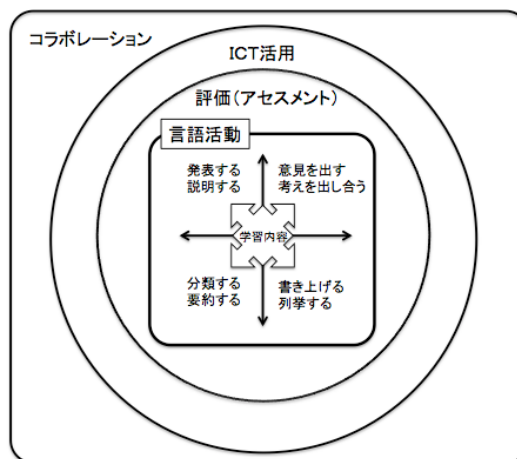


図 2 21 世紀型スキルの習得を目指す言語活動による学習モデル

4. まとめ

本稿では、言語活動及び 21 世紀型スキルとの関係を検討し、学習モデルを開発した。このモデルにより、言語活動を通して 21 世紀型スキルの習得を目指す学習を行うことが期待できる。今後は、授業設計についての検討し、授業実践につなげることが必要である。

参考文献

- (1)中央教育審議会(2005)我が国の高等教育の将来像(答申)
- (2)文部科学省(2008)幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について(答申)
- (3)文部科学省(2009)学習指導要領
- (4)ATC21S(参照日 2012.7.16)<http://atc21s.org/>
- (5)中央教育審議会(2007)教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ
- (6)黒上晴夫ほか(2012)小学校学習指導要領およびその解説で想定される思考スキルの系統に関する研究(1). 日本教育工学会研究報告集, JSET12-1, pp.255-262
- (7)文部科学省(2010)児童生徒の学習評価について(報告)